

公民館だより なかがわ

第495号

令和6年2月1日
発行 中川地区公民館
TEL.Fax : 679-2501

【一般講座】

参加者募集

2月 館外講座「芸術鑑賞」 3月「春のフラワーアレンジメント」

日時：2月20日（火）中川地区公民館8：45 集合
9：00 出発 16：30 公民館着予定

内容：映画「身代わり忠臣蔵」（フォーラム山形）
昼食「味工房すず」
見学「山形県郷土館 文翔館」

参加費：2,500 円（つり銭のないようにお願いします）

対象：中川地区民

定員：先着 20 名限定

締切日：2月9日（金）までとしますが、
定員になり次第、受付終了となります。

申込方法：電話か来館にて、名前、住所、電話番号を
お知らせください。



日時：3月12日（火）

10：00～12：00 頃

場所：中川地区公民館 集会室

講師：つかさ花店さん

内容：春の生花を使ったアレンジ

持ち物：花切はさみ、持ち帰り用袋

材料費：2,500 円

（つり銭のないようにお願いします）

対象：中川地区民

定員：20 名程度

締切日：2月15日（木）



※今回のアレンジとは
違いますが、令和4年
3月の作品です。

お申込み・お問合せ：中川地区公民館（☎679-2501）

2月・3月 行事予定



2/1(木) 市報・館報
2/2(金) 予算審議会・三者会・会長会
2/3(土) 笑い与健康のつどい
2/9(金) 出前スポーツ教室「ヨガ&リンパケア」
2/13(火) そば打ち教室
2/16(金) パソコンクラブ
子ども会育成会反省会
2/17(土) 主事部・体育部反省会
2/20(火) 一般講座（館外講座）「芸術鑑賞」
（職員不在時間あり）
2/27(火) 粋いき倶楽部（職員不在時間あり）

3/1(金) 市報・館報・福祉村だより
3/4(月) 施設訪問
会長会・公民館運営協議会
3/5(火) そば打ち教室
3/6(水) 中川食改総会
3/8(金) パソコンクラブ
3/11(月) 中川地区監査
3/12(火) 一般講座「春のフラワーアレンジメント」
3/13(水) 会長会・公民館運営協議会
3/19(火) 令和6年度新会長会顔合会

詩吟教室（火曜日） 2/6、13、20
ラージピンポン愛好会
（木曜日） 2/1、8、15、22、29

スポーツ麻雀愛好会
（木曜日） 2/15
（土曜日） 2/10、24

中川地区新年祝賀会 開催！

1月9日（火）、令和6年「中川地区新年祝賀会」が、上市市長はじめ多くの来賓の方々をお迎えして開催されました。冒頭に令和6年能登半島地震により亡くなられた方々に黙祷を捧げた後、仙石地区の佐藤 修司地区会長の司会進行により、市民憲章の唱和、中川地区会長会 鈴木 英明会長の主催者挨拶が行われました。また、中川地区表彰では、クアの道高野及びクアパーク高野の環境美化及び公園の整備に尽力されました、高野地区の 樋口 誠一 様（故人）に感謝状が贈られ、後日公民館において、ご家族に贈呈いたしました。（写真右下）大変感謝申し上げます。続いて、山本市長、遠藤県議会議員より来賓を代表してご挨拶を頂戴いたしました。その後、高野地区の山口 博之さんにお謡を、薄沢地区の齋藤 陸州さん（齋藤 秀雄さん）に祝吟を披露していただき、新春にふさわしく厳かな雰囲気となりました。その後は皆様和やかに歓談され、最後に、中川地区のますますの発展を祈念し、山田 君夫館長の音頭により万歳三唱にてお開きとなりました。これからも中川地区がますます活性化していけるよう知恵を絞って、今年もできることを精一杯やっていきたいと思っております。



わんぱく広場「そば打ち体験教室」

12月26日（火）4家族8名の参加とそば会員8名 計 16名の参加で『そば打ち体験教室』を開催しました。材料の計量からいざスタートへ！！会員さんが先生となって、混ぜるこねる伸ばすと工程を進んでいきました。コツを掴むのがとても早く感心してしまいました。いよいよ最後の切り方へ。見たことのない包丁と包丁の重さがずっしりとあり、ゆっくりと時間をかけて丁寧に切っていく麺が完成しました。『わあ～出来た～♪』の笑顔がとても良かったです。お忙しい中、同伴して下さった保護者の皆さん、並びにそば会員の皆さん、最後までお手伝いいただき、ありがとうございました。



粋いき倶楽部「だんご木飾り作り交流会」

1月10日(水)、中川小学校1年生4名・山形盲学校の児童3名と中川粋いき倶楽部会員による「だんご木飾り作り交流会」が中川小学校の家庭科室で開催されました。「だんご木飾り」は、小正月(1月15日)に秋の豊作などを願って行われる伝統行事です。粋いき倶楽部の会員さん達が、前日から楽しみにしていた1年生と一緒に、だんごの粉に水を入れて混ぜ合わせ、食紅で色をつけてこねていきました。児童の皆さんは、楽しみながら一生懸命取り組んでいました。丸めただんごを茹でて冷ました後、ふれあいホールに移動して、地区の方からいただいた立派なミズキ(水木)に、だんご、麩菓子、鯛飾りや繭玉、1年生が作った折り紙飾りを飾っていき、見事なだんご木が完成しました!!がんばって作ってくれた児童の皆さん、参加していただいた粋いき倶楽部の皆さん、本当にありがとうございました。



上山市少年少女ミニバスケットボール大会



1月13日(土)、三友エンジニア体育文化センターにて、第42回上山市少年少女ミニバスケットボール大会が4年ぶりに開催されました。中川地区からは男女混合『中川ファイヤーズ』として、10名の児童が参加しました。結果は残念でしたが、チームの雰囲気が良いということで、特別賞としてグッドファイト賞をいただきました。チームメイトを思う気持ちなどが評価されたのではないかと思います。この大会にあたり、事前練習の指導をしていただいた中川にまくさクラブの木村さん、御協力していただいた保護者の皆さん、監督、コーチ、マネージャーの皆さんありがとうございました。そして何よりも子ども達、頑張りましたね!!

出前スポーツ教室 「足腰元気体操」

1月19日(金)、出前スポーツ教室2回目「足腰元気体操」が、ロコモ予防として足腰の筋力とバランス能力の維持改善メニューで開催されました。色分けされた輪の中を、数や色を指定されて頭も使いながら歩くことでバランス能力を鍛えたり、スクワットを多く取り入れている「花の山形!しゃんしゃん体操」で、楽しく筋力アップができ、体がぽかぽかになりました。



【一般講座】 「コーヒーの美味しい淹れ方教室」



1月23日(火)、一般講座「コーヒーの美味しい淹れ方教室」が、(株)東北萬国社の古山 寛之さんを講師にお迎えして開催されました。コーヒー豆の香ばしい香りが漂う中、お湯の温度や抽出時間などにより、苦みや酸味が異なることを学び、実際にやってみてその違いを実感することができました。また、いろいろな国のコーヒーを飲み比べた後、気に入ったコーヒーをケーキと一緒にいただき、幸せいっぱいの時間となりました♪



おらほの中川〈地域の話題シリーズ 第百八十四弾〉

「昭和考、問わず語り（その36）」

昭和六年九月一八日午後一〇時二〇分頃、関東軍独立守備歩兵大隊が南満州鉄道奉天駅の北方約八キロの柳条湖で、線路を爆破する事件を敢行します。のちにこの事件を契機として関東軍が満州に進攻し「満州事変」に発展しますが、本稿では、軍がその暴挙を後押しした状況について記述します。

〈事変直後の対応〉

事件発生翌一九日午前七時、陸軍省・参謀本部合同の省部首脳会議が開かれ対策を協議し、小磯軍務局長が「関東軍今回の行動は全部至当の事なり」と発言、一同異議なく、閣議に兵力増派を提議することになった。

この決定を受け、作戦課では朝鮮軍よりの応急派兵、姫路第一〇師団の動員検討を始めたところ、午前八時半、林銑十郎朝鮮軍司令官（写真①）より、混成旅団（平壤）を奉天方面に出動させるよう準備中との報告が入った。



（写真①）

しかし、国外派兵は、陸相・参謀総長のみならず内閣の承認が必要とされ、そのうえで天皇の裁可と奉勅命令の下達を必須とした。またそのための経費支出を閣議において、認められなければならなかった。

〈閣議で不拡大方針を決定、旧態復帰を指示〉

そこで参謀本部は、朝鮮軍の独断的行動は妥当ではないとして、部隊の行動開始を見合わせるよう指示し、満州への越境派兵について至急閣議の了承を得ようとした。

だが、午前一〇時から開かれた閣議では、幣原外

相から関東軍の計画的な工作を疑わせる情報提供がなされ、南陸相による事態報告に懐疑的な雰囲気となったため、陸相は、関東軍増援（朝鮮軍派兵）を提議できず、事態不拡大の方針が決定された。午後二時より、陸軍三長官会議が開かれ、そこでも不拡大方針を決定、南陸相自身もそれに同意した。これを受け、金谷参謀総長は、参謀本部長会議で、旧態復帰を部内に指示した。また本庄繁関東軍司令官（写真②）に対しても、事件処理に関しては「必要の度を越えざる」主旨により善処するよう訓電を発した。



（写真②）

〈幕僚層が反発、旧態復帰拒否を申し合わせ〉

しかし、その後作戦課は、参謀総長の指示に反する内容の「満州に於ける時局善後策」を作成し、参謀本部内の首脳会議（次長部長クラス）の承認を得た。

この「善後策」は、軍の態勢を旧状に復帰させることは「断じて不可」であり、現状を維持すべきである。もし現状維持を内閣が認めないようなら陸相は辞職すべきで、これによって「政府の瓦解」が生じて、いささかも懸念する必要がある。また、満州諸懸案、中村大尉事件、満鉄爆破事件の「二併」解決（一括解決）を中国側に迫ることを、陸軍大臣は「最後の決意」をもって閣議に提起すべきだ、とされている。そして、最後の手段として、「国家永遠のため陸軍によるクーデター断固す」との意志も示している。（ただし、一々会ではなかった今村作戦課長は、満蒙諸懸案などの一併解決以上に、全満

甲石地区 高橋 正之

州の占領や満蒙領有などは考えていなかったのである。）

翌九月二〇日午前一〇時より、杉山次官ら三官衛首脳が会合し、満蒙問題の一併解決を期し、「軍部案」に同意しない場合には、「政府が倒壊するも毫も意とする所にあらず」との方針、および旧態復帰拒否が確認された。

一方、一々会の永田鉄山ら軍事課は、この「善後策」をもとに、次のような「時局対策」を策定し、三長官会議（南陸相、金谷参謀総長、武藤教育總監）の承認を得た。

それは、事態不拡大の閣議決定にことさら反対する必要はない。しかし、それと軍の行動とは別個の問題であり、軍は任務達成のため情勢に応じ、「適宜の措置」をとらしめるべきであり、「中央においてその行動を拘束せず」というものであった。九月二一日午前一〇時より午後四時にわたり閣議が開かれ、そこでは、満蒙問題の一併解決に意見一致をみたが、関東軍の態勢（現状維持か旧態復帰か）や朝鮮軍からの増兵派遣については、具体的には何ら決定しないまま散会した。

〈関東軍の独断派兵〉

九月一九日の夕方、本庄関東軍司令官は、石原参謀らの起案に基づき、朝鮮軍の満州派遣に依りて、北満ハルビンや吉林への派兵準備のため、長春に兵力を終結すること、西方への遼河渡河点を確保するため、満鉄本線西部の新民屯等を占領すること。北西線の港南付近を占領し、満鉄培養線の四平街・兆南線を守備すること、などの命令を発した。しかし、朝鮮軍派遣が軍中央によって差し止められ、翌朝、長春への兵力集結は実行されたが、その他の占領は中止となった。

石原・板垣は、当初から全満州の軍事占領を企図したが、張学良の指揮する東北辺防軍の総兵力は約四五万人、関東軍は約一万人であり、朝鮮からの兵力増援がどうしても必要だった。（昭和陸軍全史―川田稔著、講談社現代新書より）

（次回は、朝鮮軍の独断越境、内閣の追認について記述する予定です。）